



国際会長 (IP) K.C.Samuel (India)

“Into the next 100 Years with FELLOWSHIP & IMPACT”

「フェロウシップとインパクトで次の100年へ」

アジア太平洋地域会長 (AP) Chen Ming Chen (Taiwan)

“Elegantly Change with New Era”

「新しい時代とともに、エレガントに変化を」

東日本区理事 (RD) 佐藤 重良 (甲府21)

“Let's act now for the future”

「未来に向けて今すぐ行動しよう」

湘南・沖縄部部长 (DG) 小松 仲史 (厚木)

「楽しく・元気よく・前向きに」 副題: 入りたくなるワイズにしよう

横浜クラブ会長 (CP) 古賀 健一郎

「他者と共に生きる ~ 平和を求めて」

“Live together in harmony ~ for Peace”

会長 古賀 健一郎  
副会長 古田 和彦  
書記 古賀 健一郎  
会計 大高 治  
直前会長 古田 和彦

監事 松島 美一  
ブリテン 伊藤 誠彦  
担当主事 青木 英幸

## <今月の聖句>

佐竹 博

ごく小さな事に忠実な者は、大きな事にも忠実である。  
ごく小さな事に不忠実な者は、大きな事にも不忠実である。

(ルカによる福音書 16章 10節)

## 今月のひとこと

### 『他者と共に生きる～平和を求めて』

古賀 健一郎

今年度の横浜クラブ主題は、『他者と共に生きる～平和を求めて』とした。コロナ禍、さらには平和が脅かされている厳しい現実において、不一致、分断や分裂を私たちはさまざまに経験し、『共に生きる』・『共に助け合う』・『地域と共に』に向かって行動するワイズ・YMCAの働き的重要性がより高まっている。

そして、「私たちはみな、創造的な利他主義の光の中を歩くのか、破壊的な利己主義の暗闇の中を歩くのかを決断しなければならない。」とのキング牧師の言葉が今の世を生きる私たちの心に響いてくる。『他者と共に生きる』ことは、喜びと楽しさと呼び起こす。

ワイズメンズクラブ「Y's Men Club」が「YMCA」の人たちの意味であるように「YMCAのパートナー」である。YMCAが約束するブランド価値『みつかる。つながる。よくなっていく。』とは……ひとりが「よくなる」と、その人と出会った誰かがうれしくなる。そして「よくなる」の連鎖はやがて社会や世界を変えていくチカラとなっていく。そしてきっと平和を形にしていく原動力となっていく……と。横浜クラブ創立時の関東大震災復興へ気概あふれる仲間が、横浜YMCAとともに、横浜の地域社会に希望の光をもたらそうと活動してきた。この伝統を引き継ぎ、YMCA・ワイズの連帯の力で、人びとが共に支え合う地域社会に貢献したいとの思いである。

そして、今年度もまた、横浜クラブの国際交流の視野に立った歴史と、クラブが横浜YMCAと企画した『日本語スピーチコンテスト』実績を踏まえながら、横浜YMCA専門学校で学ぶ外国人留学生が新型コロナウイルスの影響を受け、学費、生活などの困窮による不安にある現状を心に留め、

### 佐竹ワイズ 今月の聖句について

横浜YMCA職員は、7月第1週を安全週間として命を守り、事業を安全に運営するための学びを行います。

45年前に起きた参加者が命を落とすという経験をもとに二度と起こしてはならない、と夏のプログラムを前に心新たに誓い学びを深めるために行っています。

今年の安全週間のメッセージで私が用いる聖句です。今、社会においても、日々の私たちの生活においても大切なメッセージとしてご賛同いただけるのではないかと思います。

## <2022年6月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F
12名	メン 7名 メネット 0名 コメット 0名 ビジター 0名 ゲスト 0名 合計 7名	75 % (メーキャップ 2名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円

## <7月の行事予定>

EF/JEF

日	曜	時間	行事内容	場所
14	木	18:30	横浜クラブ総会	ハイブリッド
23	土	15:00	第1回部評議会	湘南とつかY
28	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom

外国人留学生との“豊かな交わり”と同時に、彼らに対する“あらゆる可能な支援”を実行していきたい。さらに、ロシアの軍事侵攻によって退避を余儀なくされたウクライナの方々の為にも、横浜 YMCA・横浜市連携での生活支援活動に、可能な限り、クラブがサポートできることも模索したい。

YMCA ブランドロゴ  は、鳥が飛び立とうとする瞬間の姿を、アルファベットのYが想起される形に重ねあわせている。曲線と赤い色によって、生命の息づかい（生命感）と、希望ある豊かな社会を実現して行こうというYMCAのポジティブな姿勢を示している。

私たちの『ワイズ・YMCAのつながり』の豊かさの中で、具体的な活動・取り組みをもって『他者と共に生きる～平和を求めて』とのクラブ主題を、しっかり実行に移していきたい。

## <6月第一例会報告>

古田 和彦

日時：6月9日（木）18：30～20：00

開催方法：Zoomによる開催

出席者：青木、秋元、伊藤、大高、古賀、齋藤、古田  
ビジター、ゲストはなし

大高ワイズの司会で開始。古賀会長により開会点鐘と挨拶、全員でワイズソングを歌い、ワイズの信条を唱和する。Zoomではなかなか合わず、難しい。今月の聖句は田口ワイズにより「希望を持って喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。」（ローマの信徒への手紙12：12）と定められたが、業務により欠席のため、古田ワイズがブリテン記載の今月の聖句のコメントと共に代読、祈りをささげた。

今月は総会準備の例会で卓話はなし。ビジネスに入る。7、8月の行事予定の確認では、今までZoom中心の例会としてきたが、7月からは対面中心（会場に参加でき

る人は会場に、体調等で難しい人は従来通りZoomで）にしていくことを了承した。

協議報告事項では、各人が担当して準備した総会資料により事業報告、会計報告等行う。事業報告では、古賀会長による当年度評価の説明を受け、基本的には了承した。また、大高会計から会計報告を受け、了承した。次年度事業計画、予算を含め、全体的に、文言の見直し、資料の再整備を行い第2例会で確認の上、来月総会に提示することとした。

その他、ブリテン7月号編集計画を提案通り了承、広報活動の一環であるクラブ紹介リーフレット等について対象者は誰で、何をアピールするのか再度整理をして準備していくこととした。ハッピー・バースデーは該当者なし、20時、古賀会長の点鐘で閉会した。



## 「第25回東日本区大会報告」

大高 治

2022年6月4～5日、宇都宮ワイズメンズクラブのホストの下、栃木YMCAが協力したというウェブ会議が盛大に開催された。4日（土）の参加者のピークは188人でした。横浜クラブからは青木、大高、古賀、佐竹、田口、古田の6名のワイズが参加。

筆者は区大会参加は初めてでしたが、コロナ禍でよくここまで準備されたと関係者のご労苦に感謝し、YMCA並びにワイズの世界的な広がりとのつながりには感動を覚えました。

### 1. 開会式

6月4日13時、予定通り開会式、祝辞、挨拶、メモリアルと続き、YMCAユースによるキャンプソング、ウクライナ国歌や支援の歌が披露された。

来賓祝辞では日本YMCA同盟の田口総主事が「困難な中、世界のYMCA、日本のYMCAも社会との絆を大切にし、光は暗闇の中で輝いている。ウクライナのYMCAも侵攻と同時に活動を開始し、ヨーロッパのYMCA、日本のYMCAも世界と繋がっている」と述べ、「絆を深める時」というスローガンに呼応された。

国際会長 Dr. Kim Sang-Chae 氏(Korea)やアジア太平洋地域会長大野 勉 氏(神戸ポート)からも祝辞が寄せられ、次の大イベントが紹介された。

・ワイズメンズ100周年記念（2022年11月15-17日）、台北。

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★

- ・第3回東西日本区交流会（2023年2月4～5日、神戸。更にワイズメンズクラブの功労者8名（74歳から91歳）を追悼、その貢献に感謝し黙祷を捧げた。

## 2. 東日本アワー

東日本区書記の衣笠ワイズは司会で、まずウクライナ募金活動に感謝され、

- ① 法人化したメリットを最大限活かす
- ② 新しい生活様式に沿ったクラブ運営
- ③ 新しい組織の検討—組織力の低下を補う新組織の構想
- ④ 献金協力金の達成目標と実績

等の説明に続いて第1号議案から第8号議案の可決承認が報告された。

各部長報告では北海道部から順に北東部、関東東部、東北部、あずさ部、東京サンライズ、湘南・沖縄部、富士山部まで9つの部と合計57の所属クラブの主な活動や特色が報告され、Zoomの良さと共に、難しさや合同例会開催の例も報告された。

## 3. ウクライナ情勢とワイズ、YMCAが出来ることについての座談会

田口同盟総主事を囲む大久保理事、山田実行委員長（宇都宮ワイズクラブ）の3者によって行われ、ヨーロッパからはヨーロッパYMCAのJuan Simons 同盟総主事とデンマークのワイズ Erling Birckbak 次期理事からのビデオ・メッセージが寄せられた。Simons氏は「女性、老人、子供を含む難民支援は緊急事態であり、多くの難民がYMCAを通して日本へもやって来る」こと、Birckbak氏は「デンマークが中心になっての難民支援」を報告された。

以下聞き取れた範囲で、座談会の様子を挙げてみます。

- ・YMCAを通して500万人中40万人を他国に送り出したが、ウクライナのYMCA キャンプ場にまだ1万人がいる。
- ・若者はどういう状況だろうか。正しい情報をどこから得ているのだろうか。
- ・募金を含め多くの人が協力している。
- ・この機会に未来のボランティア活動に繋がり、ボランティアとしてもYMCAを支える日本の若者が現地の若者と共に働くテーマづくりや、平和を築くための若者が出来るプロジェクトが欲しい。
- ・YMCAはロシア、ベラルーシ、ウクライナにもある。戦闘が終わったら活動出来るようヨーロッパのワイズではデンマークが積極的。
- ・戦争が終わればロシアのYMCAにも支援出来る。東欧のワイズとも手を組んでみたい。
- ・欧州1か国のことが、欧州全体へ広がり、日本には10%の避難民が来る。この受け入れは行政と協力して行く。
- ・ここ数カ月で直面した問題点； 渡航費用、パスポート、外国人の就労問題。
- ・避難民問題で学んだこと； 日本語を学んで、日本で働く場を見つけ、定着を希望している人が、お金を持っていない。諸々の手続きにもサポーターが必要だ。
- ・ウクライナ避難民は言葉と生活全般に問題がある。ワイズはどんな関わりが出来るだろうか。サポート団体があることは心強い。日本語の出来るウクライナ人と月1回の打合は出来ている。
- ・YMCA 同盟はウクライナ人 119名の避難民を受け入れた。

広島の名は「安全地帯に居ることに後ろめたさを感じながらも仕事をしたい」と語っている。

- ・ロシア語を話せる人が居ないだろうか。知り合いに居たら紹介して欲しい。

6月5日（日）は8:30から聖日礼拝、9:10からYMCA ユースリーダーの会が開かれた。

## 「部研修会報告」

齋藤 宙也

5月28日(土)、横浜市舞岡地区センターで、湘南・沖縄部の研修会が開かれた。

10時から、現在は同盟の総主事である田口ワイズによる講話が行われた。

東日本区が法人化したということで、東日本区が一般社団法人になるまでの歴史を概観したのち、これまでの我が国の非営利法人の歴史を、阪神大震災以降から概観した。

阪神大震災の時点で、支援ネットワークの中心部分に全国のYMCAないし同盟が記載されていて、この頃からYMCAの災害支援活動が積極的になされていたことがよく分かった。その後、NPO法が制定された。制定自体は98年であるが、横浜YのNPOができたのは、少し後である。施設運営の都合という目的が定まり、それに即して法人化したものであった。

東日本区は、目的がないわけではないものの抽象的であり、法人が先に来たとも評価できる。現在、法人推進委員会で、何をするか検討が進んでいる。目的が先か、法人が先かということ自体は、直ちに問題になるものではないと思う。

それより問題なのは、田口ワイズが指摘した、事業化のジレンマ、あるいはパラドックスである。もともと、非営利のボランティア団体は、仕事ではない、本業ではないということに意義があったのに、独自事業を始めると、結局、それは実質的には仕事になってしまう。それでは、緩やかにつながることができず、かえって人を選んでいくようになってしまわないかという問題である。

法人推進委員会は、せつかく法人化した以上、法人ならではの事業を進めるという大前提がある。しかし、それが、かえって会員増強では足かせになりかねない。そのことを意識していた人はほとんどいないであろう。

田口ワイズの指摘は、どこのボランティア団体でも同じなのであろうが、ワイズで起こらない保証もない。このような人心、あるいは組織論は、長年非営利団体を牽引してきた田口ワイズならではの視点であったと思う。

その後、若干の施設見学をして、久しぶりに、入口で、一瞬マスクを外して記念撮影を行った。

その後は、それぞれ昼食を取りながら、おおむね聖光学院に移動し、会員総会へと連動することになった。

横浜クラブ出席者：古賀、齋藤、田口、古田

## 「第94回Y-Ys協議会報告」

青木 英幸

6/7（火）19:00-20:00に第94回Y-Ys協議会がZoomに

より開催された。今回の担当は横浜とつかワイズメンズクラブで、礼拝は瀬戸俊孝担当主事が行い、続いて、同クラブの若木一美会長の司会で進行した。

先ず横浜 YMCA 佐竹博総主事、次いで湘南・沖縄部若木一美部長よりご挨拶をいただき、4件の報告に入った。

#### 1. 東日本区担当主事会報告 (阿部正伴)

6/4,5 に開催されたワイズ東日本区大会に先立つかたちで4日の10:00-11:30に東日本区のワイズメンズクラブ担当主事がオンラインでミーティングを行った。2021-22年度概要報告と担当主事のマニュアル共有により、ワイズメンズクラブとYMCAの関係、担当主事の役割を確認し、その後、コロナ禍からのリカバリーとワイズ協働をテーマに分団協議が行われた。

#### 2. 第25回横浜YMCAインターナショナルチャリティーラン (瀬戸俊孝)

今年度はオンライン大会とリアルの大会を併用して実施する。オンラインは10/17-31、リアルは幼児・小学生へ限定して10/15に臨港パークにおいて実施予定で準備を



進めている。

ワイズの方には当日のボランティアを担っていただく予定。大会実行委員長は次年度湘南沖縄部部長の小松仲史さんへ依頼。

#### 3. 第29回 AIDS 文化フォーラム (阿部正伴)

8/5-7にかながわ県民センターを会場にオンラインとハイブリットで実施する予定。文化へくりかえされるもの うまれるもの~をテーマに、20プログラムを予定

#### 4. ウクライナ募金報告 (本部事務局石川晴美)

YMCAによるウクライナ避難民支援

ポーランド YMCA とヨーロッパ YMCA 同盟、日本 YMCA 同盟が連携して日本に親族が居住するウクライナ避難民の受入をサポートを行った。第1次支援募金(3/4-4/30)の横浜 YMCA 募金総額は4,708,607円となり現地で活動に使用された。

横浜市「オール横浜支援パッケージ」の中の生活に係る費用、生活スタート支援、ウクライナ・カフェの3つについて、横浜市より依頼を受け横浜 YMCA が関わっている。

第2次支援募金(5/1-8/31)では、神奈川県内に避難され

てきた方々の生活の支援へ充てていく。

報告終了後、各ワイズメンズクラブから簡単な報告がされ、次回第95回は、金沢八景ワイズメンズクラブが担当で9/6(火)19:00~20:30に横浜中央 YMCA を会場とし実施することを確認し閉会した。

### 「近況:人生を大きく変えたこと」

秋元 美晴



私は2021年の4月に横浜ワイズメンズクラブの入会が認められたので、約1年がたったことになりません。

2016年3月に恵泉女学園大学を定年退職したのですが、その後ずっとと大学に関係し、今年2022年の3月まで大学院生の指導に当たっていました。その2名が修了したので、これで大学とは一応縁が切れました。その間約30年、私は恵泉女学園大学にいました。定年前の6年間は特に忙しく、週に4日大学に行っておりましたので、大学に行かなくてよくなったら、どんなにか時間ができらるだろうと思っていました。

早く自由になりたいという気持ちと、家事は母親に任せっきりで、仕事ばかりしていた私は一体何をしたら時間をつぶすことができるだろうかと不安でもありました。

子ども食堂で食事を作るなど、世の中のためになることを何かしたいと思っていました。ちょうどYMCAの日本語のスピーチ大会を通して、ワイズメンズクラブがあるということを知り、古賀会長にお願いして横浜ワイズメンズクラブに入会させていただき、これまでできなかった世の中のためになることしてみたいと思いました。

昨年の12月に用賀教会で洗礼を受けていただきましたので、毎週主日礼拝に出席し、白牧師先生のお説教を聞くようになりました。木曜日の夜は聖書研究祈禱会もありますので参加し、先月からは月2回のBible Basicsにも参加しています。(しばらくぶりに英和辞典を引いていますが、私が引く単語のすべては重要語彙、つまり基本語彙だということがわかり、悲しくなっています)

こうしているうちに、私は自分自身少しずつ変わってきたように感じます。礼拝でのお祈りやお説教が素直に聞けるといふか、すんなり私の中にはいつてくるというか、そんな気がいたします。例えば、用賀教会では礼拝式順に「招きの言葉」と「派遣の言葉」がありますが、その意味がわかるようになったように思うのです。きっとまだまだ独りよがりな解釈なのかもしれませんが、私はここから「アーメン」と言えるようになりました。

横浜ワイズメンズクラブの会員になれたこと、キリスト者になれたこと、この2つのできごとが私の人生を大きく変えたように思います。

### 第二例会報告

伊藤 誠彦

日時: 6月23日(木) 17:30~19:00 (Zoom 例会)

出席者: 青木、伊藤、大高、古賀、古田

## 1. 行事予定の確認

7月、8月の行事予定を確認

## 2. 協議・確認事項

7月のクラブ例会は総会、久しぶりに横浜中央 Y に集まって開催する。但し、Zoom も併用。

8月例会はコロナ禍以前は納涼会を開催していたが、古賀会長より久しぶりにどうかと提案があり、中華街でも実施することにした。

9月例会は、21-22年度継続してきた「横浜 YMCA と横浜クラブ連携強化」シリーズの締めくくりとして佐竹総主事に卓話をお願いすることになった。

総会に備えての準備作業としては、22-23年度のクラブ方針と予算案について話し合った。

いろいろな意見が出たが、あくまでも身の丈に合った活動の展開が基調であることを確認し、クラブ活動方針と、それを支える予算案に同意した。



担当主事 青木 英幸

遅くなってしまいましたが2022年度より横浜 YMCA 学院専門学校の仲間に加わりました教職員を、写真左側から紹介させていただきます。



左から、諏訪 小百合さん、児嶋 百合香さん、古田島 聡美さん、潘 紅さん

諏訪小百合さんは、以前は同じ8階の事務室内にある英語学校にいましたが、4月より専門学校へ異動となり、主に国際情報ビジネス科と日本語学科を担当しています。

昨年度より開催されているユースカンファレンスの中心人物であり、現在は YCJ サポーター（チューター）窓口もご担当いただいています。

児嶋百合香さんは、横浜 YMCA 専門学校内でビジネス・ホテル・観光系（商業実務）、介護福祉・保育系（教育福祉）、スポーツ系（文化教養）と様々な分野の学科運営の経験があり、4月より作業療法科（医療分野）の教務・学務を担当しています。今迄の経験を活かし、学校内の成績管理を中心としたシステム構築を担っていただいています。

古田島聡美さんは、以前は YMCA 健康福祉専門学校（厚木 YMCA）で日本語学科の主任教員をされており、1年間

の産休・育休が明け、5月より本校にて復職されました。日本語学科において、日本語の授業と学生の生活支援や非常勤講師の先生方の取りまとめを担っていただいています。

潘紅さんは、中国のご出身で日本の大学院を卒業後、横浜市内にある日本語学校での勤務経験を経て、4月より横浜 YMCA に入職されました。主に国際情報ビジネス科と日本語学科で募集広報や入管申請作業をご担当いただいています。

学校行事や横浜 YMCA 全体行事で一緒させていただく機会があるかと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

## 7 例会プログラム

日時：7月14日(木) 18:30~20:30

場所：中央 Y、Zoom 併用

司会：伊藤ワイズ

1. 開会点鐘および挨拶・・・古賀会長
2. ワイズソング・ワイズの信条・・・全員
3. 今月の聖句・・・佐竹ワイズ
4. ゲスト・ビジターの紹介・・・古賀会長
5. 総会・・・古賀会長

議長選出と定足数の確認

議案の審議

- 第一号議案 2021-22年度事業結果報告
- 第二号議案 2021-22年度各事業委員報告
- 第三号議案 2021-22年度会計報告
- 第四号議案 2022-23年度クラブ役員、事業委員の確認

第五号議案 2022-23年度運営方針と事業計画

第六号議案 2022-23年度予算案

6. キックオフ例会・・・古賀会長  
ビジネス・報告

7. Happy Birthday 該当者なし

8. 閉会点鐘・・・古賀会長

例会報告：古田ワイズ

## 8月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
5-7			エイズ文化フォーラム in 横浜	Zoom
11	木	18:30	横浜クラブ第一例会兼懇親会	廣東飯店
25	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA 青木英幸にご連絡下さい。

メール [aoki\\_hideyuki@yokohamaymca.org](mailto:aoki_hideyuki@yokohamaymca.org)

電話 045-661-0080